広　告

これからは、医療と介護でまちづくり

私のまちのかかりつけ医

かかりつけの先生がいれば、病気の早期発見にもつながるはず

音無 美紀子さん（女優）

テレビに舞台に映画にと、大忙しの女優・音無美紀子さん。元気はつらつとした賢夫人のイメージがありますが、若い頃に乳がんを発症し、その後うつ病も患われました。大病を経験したからこそ言える、病気の早期発見へのポイントとは。

音無 美紀子（おとなし みきこ）
1949年生まれ。東京都出身。女優業の傍ら、夫で俳優の村井国夫、娘で女優の村井麻友美をはじめ、タレントの清水よし子、俳優の太川陽介らと共に、2011年12月、東日本大震災の復興支援活動として「音無美紀子の歌声喫茶」を開始。活動は現在も続き、「歌を絆に」を合言葉に、毎月1回東京近郊で大勢が声を合わせて歌う場をつくり、人と人との絆を深めている。

若くして乳がんを発症 乳房全摘手術を受ける

風邪ひとつひかず、寝込むこともない、とても大きな病気にかかるなんて想像もしていなかった38歳の時に、乳がんを患いました。乳がん検診の回覧板が回って来た時に近所の友人から「乳がんは自分で触って分かる唯一のがん」と言われ、ためしに触ってみたらしこりを感じたのです。病気に対する知識もなかったため「乳がんかもしれない」と思っても、何科のお医者さんにかかれば良いのかもわからないような状態でした。

ひとまず知り合いの産婦人科の先生に診てもらい、そこで大学病院を紹介されたのですが、仕事が忙しいこともあって、病院に行くのを遅らせてしまいました。でも次第に手を挙げると違和感や痛みを感じるようになってきたので重い腰を上げて大学病院に行き、そこで乳がんを告知されました。ショックを受けて親友に話をしたところ、今で言うセカンドオピニオンを受けに行こうということになり、紹介された別の大学病院に行きました。

しかしそこでも結果は同じ乳がん。リンパ節にも転移があり、また当時は乳房温存手術の症例数が少なかったこともあって全摘手術をすすめられました。まだ若かったですし、これからも女優としてひと花もふた花も咲かせたいと思っていたので「命も大切だけど見た目も大事」と、気持ちは大きく乱れましたが、先生が手術の仕方や術後の状態についても丁寧に説明してくれたこともあり、納得して手術を受けました。

「病気かな」と思ったら ためらわずに医療機関へ

その後、病気をきっかけにうつ病にもかかり大変でしたが、おかげさまで、今はこうして元気に暮らしています。大病から生還して30年が経ちましたが、今振り返って思うのは、医療機関に行くハードルは低ければ低いほど良いということです。

「病気かもしれない」と思った時に、すぐに行ける医療機関があれば、とても心強いですよね。さらに先生と長年のつき合いがあれば、先生がその人の体質はもちろんのこと、性格までも把握してくださると思うので「この人には、こういう治療が向いている」と適切な判断もできるでしょうし、「こんな言い方で接した方が前向きに治療してくれるだろう」と配慮もしていただけるのではないかと思います。

私は乳がんで闘病したことを長い間公表していませんでした。でも15年ほど経ってテレビ番組で初めて病気のことをお話ししたら、視聴者の方から「番組を見て私も触診したらしこりを見つけ、手術しました。音無さんは命の恩人です」という手紙をいただいたのです。誰か他の人の病気の早期発見につながることもあるので、経験者が情報を発信することも大切だと感じています。

コラム
もっと知りたい！ かかりつけ医

かかりつけ医とは

日本医師会が行った調査※によると、国民の55.9%、70歳以上の方の81.6%がかかりつけ医を持っていると回答しています。それでは、かかりつけ医とはどんな医師のことを言うのでしょうか。

日本医師会では、「一般に健康のことを何でも相談でき、必要な時は専門の医療機関へ紹介してくれる、身近にいて頼りになる医師」のことをかかりつけ医と呼んでいます。

あなたの住まいや職場の近くにも、このような医師がきっといるはずです。

ぜひ、日頃から何でも相談できるかかりつけ医を持ちましょう。

日本医師会

※第6回　日本の医療に関する意識調査

私たちは地域医療推進活動を応援しています。沢井製薬株式会社、東和薬品株式会社